

第59回 北海道小学校長会

総会・研修会 就任挨拶

この会に先立ち、一言お見舞い申し上げます。先日の九州熊本県大分県を中心におこった大きな地震の影響で、多くの方々が被災された。小学校も少しずつ正常化に向けた努力を重ねておられるが、復興への道のりは険しいと聞いている。一日も早い復興をお祈り申し上げ、心よりお見舞い申し上げます。



さて、第59回北海道小学校長会総会・研修会の開催にあたり、ただいまご承認・決定をいただいた平成28年度の役員を代表してご挨拶申し上げます。

はじめに、公務ご多用にもかかわらず、北海道教育委員会教育長 柴田達夫様、北海道都市教育長会会長 長岡豊彦様、北海道中学校長会会長 赤岩輝夫様、北海道PTA連合会会長 佐藤 彰様をはじめ、北海道小学校長会が、北海道の未来を支える子どもたちの育成のために、日頃よりご支援をいただき、チーム北海道として協力をいただいている教育関係団体の皆様、そして、歴代の道小会長及び役員の皆様方のご臨席を賜りましたことに、厚くお礼申し上げます。また、新年度が開始されてまだ1か月余りのお忙しい時期に、全道各地より総勢百名にも及ぶ代議員・理事の皆様にお集まりいただいたことに、心から感謝申し上げます。

北海道小学校長会は、「正論を以て、正道を歩む」という理念の下、校長の職能の向上と北海道教育の振興を図ることを目的に半世紀をこえる活動を展開してきた。来年度は60周年の節目を迎えることになるが、平成29年度は、くしくも政令指定都市への税源移譲が行われる年度である。その年に道小60周年が重なることも、新たな道小の出発ととらえ、組織の在り方を中心に、改革していかなければならないと思っている。

幸い、今日退任される代表として来てくださっている前札幌市小学校長会会長の北本義和様、今年度、札幌市小学校長会会長の渡辺 元様をはじめとする、札幌市小学校長会の皆さまには、昨年度より、市小の立場を、道小の一員として全連小に加盟し、北海道の子どもたちのために活動していくことを表明してくださっている。この税源移譲の変革を機に、改めて、市小との関係を問い直すためにも、道小としての組織の在り方検討委員会を昨年度に引き続き今年度も早期に立ち上げ、検討するとともに、道小が、札幌市を含めた北海道の校長先生方に、その存在感をもっと認めていただけるよう活動していきたいと思っている。

諸先輩の皆様方が築き上げてくださってきた業績や教育に対する熱き思いを真摯に引き継ぐとともに、地区校長会との連携と結束の下、北海道教育の質の向上を目指して、ますます発展していくよう、昨年から道内の校長が31名減少となったが、

全道1058名の会員の皆様とともに、全力を尽くす所存である。皆様のご指導とご支援を心からお願い申し上げます。

さて、平成30年に全国連合小学校長会いわゆる全連小の全国大会が北海道大会函館市において行われる。もう2年後にせまっているが、函館地区の皆さまを中心に順調に準備が進んでいる。その函館市小学校長会では、毎年「教育春秋」という校長会会誌を作成されているが、昨年度の会誌の中に、東山小学校の嶋田校長先生の文章が掲載されていた。行政経験が長く、函館附属小でも研究をされていた嶋田校長先生が、スマホのコマーシャルでよく知られる三太郎(桃太郎・金太郎・浦島太郎)になぞらえ、「金太郎のチームワーク、桃太郎の組織力、玉手箱を開けた浦島太郎のように時代遅れにならずに…」という校長の精神を表現しておられた。

この三太郎のたとえば、道小の校長の立ち位置としても参考になる。

- ・ **金太郎のように、校長としての自己研鑽を積み、仲間の力を高めながら、どんな強大な相手にも、ルールの中で、正々堂々向かっていくパワーをもち、**
- ・ **桃太郎とその仲間のように、事務職員をはじめ教職員はもちろん、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの各種専門家を含めた、チームとしての学校を組織し、チームワークよく活動し、**
- ・ **浦島太郎のように、困っている人たちを助け、未来を予測し先取りしていく。**

道小が、昨年から使用している「未来を見据え、チーム北海道として進む道小」というキャッチフレーズと考え方と同じであると思える。

北海道の各地区で、この三太郎のたとえばのように、新しい学校の創造に向かって突き進んでいく校長を中心としたチーム学校が更に増えていくことを期待している。

今後更に「教育改革」の加速度が増していくと予想される。在る意味、追い風が吹いているとも言われているが、学校現場では、変わらず生徒指導や保護者対応に追われ、多忙で余裕のないのが現状である。

このような中、教育改革の荒波に流されてしまうことのないよう、北海道小学校長会は、北海道中学校長会との強い連携の下、昨年度と同様に北海道教育委員会への「提言書」を作成した。本道教育の質の向上のためには、「授業改善」と「チームとしての学校」の構築に向けた条件整備が必要であるという提言内容である。

そのために、今年度も北海道小学校長会と北海道中学校長会が、北海道教育委員会、北海道都市教育長会、北海道PTA連合会をはじめ、教育関係他団体の皆様や民間教育団体等と協働し、未来を見据えた視点から、子ども像や目標を共有し、それぞれの立場からの活動と合わせて、「チーム北海道」としての意識を強くもって進んでいくことが大切であると主張している。

今週末には、要望書とともに、北海道教育委員会へ提言書をお持ちする予定である。

おわりに、改めて北海道小学校長会は、「未来を見据え、チーム北海道として進む道小」をキャッチフレーズに掲げ、本道教育の具体的な問題や課題に対して積極的に取り組み、子どもたちの成長と本道の教育に責任をもつ校長会として、全道の校長先生方と平成28年度の活動を推進してまいりたいと考えている。

ご来賓の皆様におかれましては、本会の発展のために一層のご支援をお願い申し上げますとともに、ここに参加していただいているすべての皆様のますますのご健勝をお祈り申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。

本日の総会・研修会、どうぞよろしく願います。